

令和 8 年度 国 語 (06コア)

試験開始の合図があるまでに、次の注意をよく読んで、間違いないように受験してください。

1. 試験開始の合図があるまで冊子を開かないでください。
2. この冊子は問題19ページです。別に、マークによる解答用紙 $\boxed{\text{マーク}}$ 、記述による解答用紙 $\boxed{\text{記述}}$ 各1枚をセットで配付します。
3. 試験開始の合図があったら、問題のページ数を確認し、解答用紙 $\boxed{\text{マーク}}$ ・ $\boxed{\text{記述}}$ をミシン目で折ってていねいに切り離し、すべての解答用紙に受験番号を記入してください。
解答用紙 $\boxed{\text{マーク}}$ の受験番号欄は、右を参考に記入してください。
4. 問題 $\boxed{\text{二}}$ は選択問題です。解答用紙 $\boxed{\text{マーク}}$ の選択欄にマークして、 $\boxed{\text{二-A}}$ 、 $\boxed{\text{二-B}}$ のどちらか一方に解答してください。両方に解答した場合は、両方とも採点されないことがありますので、注意してください。
5. 問題・解答用紙に落丁、乱丁、印刷不鮮明などの箇所がある場合には申し出てください。
6. 解答用紙 $\boxed{\text{マーク}}$ はすべてHBの黒鉛筆(シャープペンシル可)で記入することになっています。答えを訂正する場合は、プラスチック消しゴムでよく消して、訂正してください。プラスチック消しゴムを忘れた人には貸与します。
7. 解答用紙 $\boxed{\text{記述}}$ は、HB以外の黒鉛筆(シャープペンシル可)や黒・青の万年筆またはボールペンを使用してもかまいません。
8. 文字ははっきり、ていねいに書いてください。
9. 解答用紙の点数欄には何も記入しないでください。
10. 使用していない解答用紙は机の上に裏返しにしてください。

例 受験番号が
0637のとき

受験番号					
千位	百位	十位	一位		
0	6	3	7		
0	☒	☐	☐	☐	0
1	☐	☐	☐	☐	1
2	☐	☐	☐	☐	2
3	☐	☐	☒	☐	3
4	☐	☐	☐	☐	4
5	☐	☐	☐	☐	5
6	☐	☒	☐	☐	6
7	☐	☐	☐	☒	7
8	☐	☐	☐	☐	8
9	☐	☐	☐	☐	9

良い例	悪い例

受験番号を記入し、さらにその下のマーク欄にマークすること。

受験番号					
	千位	百位	十位	一位	
0	0	0	0	0	0
1	1	1	1	1	1
2	2	2	2	2	2
3	3	3	3	3	3
4	4	4	4	4	4
5	5	5	5	5	5
6	6	6	6	6	6
7	7	7	7	7	7
8	8	8	8	8	8
9	9	9	9	9	9

○ 選択問題について

問題㉓は、A (現代文) と B (古文) の選択問題になっています。
 選択する問題を下の欄にマークしてから解答してください。
 両方に解答した場合は、両方とも採点されないことがあります。

	二 - A	二 - B
選 択	0	0

(選択する方にマークする)

良い例	悪い例
	   

一

問一

	イ	ロ	ハ	ニ
①				
③				

問二

	イ	ロ	ハ	ニ	ホ
A					
B					
C					
D					
E					
F					

問四

I	II	III	IV	V
				

問五

	○	×
イ		
ロ		
ハ		
ニ		

二-A

問一

	イ	ロ	ハ	ニ
A				
B				
C				

問三

イ	ロ	ハ	ニ
			

問四

イ	ロ	ハ	ニ
			

問五

イ	ロ	ハ	ニ
			

問七

	○	×
イ		
ロ		
ハ		

二-B

問二

	イ	ロ	ハ	ニ
a				
b				

問三

	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	ヘ
A						
B						
C						
D						

問六

イ	ロ	ハ	ニ
			

問七

イ	ロ	ハ	ニ
			

問八

イ	ロ	ハ	ニ
			

問題は次のページより始まります。

(必修・現代文) この問題は全員解答すること (配点六〇点)

一

二〇二〇年、新型コロナウイルス禍が広がるなかで、「オーバーシュート」や「クラスター」、「ロックダウン」といった新しいカタカナ語が次々に登場し、メディアから洪水のように^{おびただ}夥しく発信されたのは記憶に新しいところだ。

たとえば「オーバーシュート (overshoot)」は、「目標を外すこと」や「行き過ぎること」などを意味する英語の一般的な言葉だが、特に工学や経済学などにおいては、それぞれの分野に固有の意味をもつ専門用語としても用いられてきた。しかし、新型コロナウイルス禍においてはある時期、専ら^{もっぱら}ウイルスの感染者数が^①指数関数的に増加することを指す言葉として感染症対策の専門家が使用し、政治家、行政、メディアなども多用していた。

そうだとすれば、次のような指摘が当然出てくるだろう。なにもわざわざ「オーバーシュート」という分かりにくいカタカナ語——しかも、分野によって異なる意味をもつ言葉——など使わずとも、たんに「感染急増」や「感染爆発」などと言えばよかったではないか、と。

「オーバーシュート」という言葉に関しては、この指摘は A と言えるだろう。ただ、この指摘を安易に一般化することはできない。すなわち、^②新型コロナウイルス禍がらみの新しいカタカナ語はすべて旧来の漢字や平仮名を用いた表記に言い換えればよい、という話になるわけではないのだ。

I

たとえば、「濃厚接触」という言葉が、疫学上の専門用語である close contact の訳語として、やはり専門家や政治家、行政、メディアを通じ世間に^aル^フした。しかし、「濃厚接触」と聞いて普通はどういうことを連想するだろうか。——現在では、この言葉は感染症にかかわる特殊な言葉としてよく知られているから、この言葉から受ける印象は以前とは相当変わったと言えるかもしれない。だが、二〇二〇年初頭の頃を思い出してほしい。メディアで「屋形船で濃厚接触」といった言葉が躍っていたとき、私たちは苦笑しながらそれを見聞きしていなかっただろうか。

II

「濃厚接触」は、キスやハグなどのまさに「濃厚」な交わりやスキンシップを容易に連想させる言葉だ。

B

「濃厚接触」は、キスやハグなどのまさに「濃厚」な交わりやスキンシップを容易に連想させる言葉だ。B、疫学上の専門用語としての「濃厚接触」は、同じ部屋のなかで一定時間会話を交わすことといった、文字通りの意味では触れてす

らないケースも指す。そして、この意味の C は、実際に害悪をもたらしたと思われる。

III

専門用語の訳語をめぐる同様の問題は、「都市封鎖」にも当てはまる。これは英語の lockdown の訳語としてしばしばメディアなどで用いられる言葉だ。しかし、「封鎖」という強い言葉で私たちが連想する状況とは異なり、新型コロナ対策のために世界各国で実施されてきた lockdown は、広く住民の外出や都市の機能への制限を指す言葉であって、国や地域によって実施の形態はさまざま。たとえば、都市間の住民の移動を完全に禁止するのではなく、さまざまな例外を設けたり、夜間の外出を制限したりする程度の形態もある。したがって、D、この言葉が指すものも見えてはこない。

その意味では、lockdown をそのままカタカナに変換した「ロックダウン」の方が、意味が不明瞭な分、むしろ適切な訳語だと言えるだろう。ただし、専門家や政治家、行政、メディアなどがこの言葉を用いる際には、折にふれて繰り返し、これが何を意味するのかを丁寧に説明しなければならない。そうでなければ、新奇な言葉を人々に押しつけているだけであり、急に降って湧いた言葉に当惑する人を徒に増やすことになってしまう。

「クラスター」という言葉も同様だ。原語である英語の cluster は、一般的な言葉としては、「(ブドウなどの)房」や「集団」、「群発」といったものを意味するが、疫学において disease cluster と呼ばれるものは、「リンクが追える集団として確認できた陽性者の一群」、またはそうした一群の発生自体を意味する。したがって「クラスター」というカタカナ語は、たんに「患者集団」という日本語に置き換えうるものではなく、その点では有益な言葉だと言える。

しかし、「クラスター」とは何なのかよく分からないという人は、私の身の回りにもまだ数多く存在する(特に、高齢者が多い)。そうした人々が置き去りになり、十分な理解に基づく適切な行動が阻害されたり、相互的なコミュニケーションに齟齬が生じるというのは、歓迎すべき状況ではない。

いま、「濃厚接触」や「都市封鎖」を問題のある訳語として取り上げたが、同様に訳語の選択がまずいものとしては、「社会的距離」も挙げられる。これは social distance (ソーシャルディスタンス) の訳語であり、疫学の分野では新型コロナ禍以前から、たとえば新型インフルエンザの流行を抑えるための非薬物的な介入手段を指す際などに用いられてきた。具体的に

は、人と人との間に一定の距離をあける (social distancing) という手段である。

しかし、「社会的距離」という日本語は、人とのそうした物理的な距離というよりも、社会において人々の間に存在する精神的な距離感、貧富の差、差別といったものを容易に連想させるだろう。実際、「社会的距離」という言葉自体は、二〇世紀前半にはすでに社会学上の概念として知られていたものだ。人間生態学や都市社会学の生みの親である R・E・パーク（一八六四―一九四四）は、地元住民とよそ者、教師と生徒、ソーシャルワーカーと社会福祉支援を必要とする人など、個人間や集団間の理解の程度、あるいはそこに存在する親近感ないし敵対的感情の度合いを指すものとして、この「社会的距離 (social distance)」概念を提唱し、社会調査などへの応用を図っている。

以上のことを踏まえるなら、ウイルスの感染拡大を防ぐ手段としての social distancing は、E のが適当であるはずだ。欧米でも、social distance ないし social distancing という言葉が人々の間の精神的な距離を連想させることが問題視されており、たとえば世界保健機関 (WHO) では二〇二〇年三月頃から、social distancing を physical distancing (物理的距離、身体的距離) という言葉に置き換える動きが見られた。また、アメリカのジョーンズ・ホプキンス大学のウェブサイトでは、感染抑制のための二種類の異なる手段として、social distancing と physical distancing をあらためて定義し直している。すなわち、後者の physical distancing が文字通り物理的に人との距離をあけることを指すのに対して、social distancing の方は、外出を控えるとか、ミーティングをウェブ会議システムを使ってオンラインで行うなどの F を指す、という具合である。

IV

ともあれ、ここまで確認してきたのは、ひとつには、耳慣れない言葉を馴染みの言葉の組み合わせ——「濃厚接触」「都市封鎖」「社会的距離」等々——に安易に置き換えるのは危険だということである。「中略」馴染みの言葉は「すでにありとあらゆる仕事や関係に奉仕してきた」のであって、私たちに特定のイメージを自ずと ^b 坎キするものだ。そして、そのイメージによって、私たちを誤った理解や行動へと導きかねないのである。

V

ただ、かといって、「ロックダウン」や「クラスター」、あるいは「ソーシャルディスタンス」といったカタカナ語を無闇に

生み出して、丁寧な説明もなく濫用^{（）}するのも問題だ。それは、私たちの間に理解の偏りやコミュニケーション不全を生み、適切な行動をとれなくさせかねない。実際、二〇二一年九月に公開された文化庁「国語に関する世論調査」の結果を見ても、特にこれらのカタカナ語に関しては、世間に広まってから相当時間が経った後も、世代間で理解の程度や馴染み具合などに大きな開きがあることがうかがえる。

lockdown の訳語としては「都市封鎖」よりも「ロックダウン」の方が適当だろう、と先に述べたのは、「都市封鎖」というショッキングな言葉は人々に誤ったイメージを与え、混乱を呼び込む可能性があるからだ。その点では、先述の「オーバーシュート」という言葉の使用も、「感染爆発」という言葉が人々に引き起こしかねないパニックを避けつつ、落ち着いた行動変容を促せたのだ、という見方もありうる。本当にそういう効果があつたかどうかはともかくとして、カタカナ語にも一定のメリットを見出せることは確かだ。そして繰り返し返すように、一定のデメリットもやはり存在する。

銘記すべきなのは、カタカナ語であれ何であれ、新語の導入には理解の偏りや誤解といった副作用がある、ということだ。だとすれば、副作用をできるだけ抑えられるように、公共性の高い領域において新語を導入する際には、はじめのうちにその適切さを皆で、慎重に検討すべきであり、また導入後も、意味の手厚い説明を心がけるべきだろう。

疫学や医学、公衆衛生などに限らず、特定の分野を研究する専門家は一般的に、欧米で普及している専門用語をそのままカタカナに変換して使用したり、よく吟味されていない直訳調の粗雑な訳語を採用したりしがちだ。というのも、専門家の多くは、欧米——特に英語——の論文を日々読み書きし、close contact や social distancing といった原語への十分な理解を前提に研究や議論を行っているからだ。つまり、もともと原語が念頭にあるので、カタカナ語の分かりにくさや訳語の誤解しやすさといったものが見えにくくなっているのである。

新語の導入を常に専門家にするのは得策ではない。新しい言葉が世間に行き渡ってしまう前に、専門家だけではなく、多様な分野の有識者や各世代の市民の見解、感覚なども踏まえて、初期段階でよく吟味し、適切な言葉を選び取る必要がある。

問一 傍線部①、③の意味として最も適当なものを次のイ～ニの中からそれぞれ一つずつ選んで、その記号にマークしなさい。

い。(解答用紙マク)

① イ 平均的に増加する

ロ 不規則に増加する

ハ ある時点から急激に増加率が上がる

ニ 予測不可能な形で増加率が上がる

③ イ 偶発的に増加する ロ むやみに増加する ハ 部分的に増加する ニ 暫定的に増加する

問二 空欄A～Fに入る最も適当なものを次のイ～ホの中からそれぞれ一つずつ選んで、その記号にマークしなさい。(解答欄)

A イ 自縄自縛に陥っている ロ 虚心坦懐に述べられた ハ 隠忍自重のあらわれ

ニ 矛盾に満ちている ホ 正鵠を得ている

B イ 話は変わるが ロ つまり ハ 他方

ニ したがって ホ あるいは

C イ 対峙 ロ 乖離 ハ 調和

ニ 協調 ホ 同化

D イ lockdown のそもそもの意味について再度吟味されることがなければ

ロ lockdown の意味を世界の人々が一意に定めることができれば

ハ 個々の国や地域が lockdown の名の下に具体的に何をしているのかを追わなければ

ニ lockdown について社会的に検証され、その語を用いることが適当であると結論づけられなければ

ホ 世界各国、各地域でどのような訳語が用いられたのかを検証することなしには

E イ 「社会的距離の確保」ではなく、「対人距離の確保」などと訳す

ロ 既に人々の間に定着している語であったので、最初からカタカナ語として訳す

ハ 人々の精神的な距離とは何を意味するかを考えながらカタカナ語を選択する

ニ 専門家による検証を経なければ適切な訳語は見つからないと考える

ホ 人々の間のコミュニケーションの阻害要因となるので、専門用語としては用いない

F イ 同調的な動き ロ 精神的な距離感 ハ 集団における合意

ニ 労働条件 ホ 社会行動

問三 傍線②「新型コロナ禍がらみの新しいカタカナ語はすべて旧来の漢字や平仮名を用いた表記に言い換えればよい、という話になるわけではない」とあるが、なぜそういう話にならないと筆者は考えているか。問題文の趣旨に沿って七〇字以内で説明しなさい。(解答用紙記述)

問四 次の枠内の文章は問題文中の

I

V

 のいずれかの位置に入る。最も適当な位置を一つ選んで、その記号にマークしなさい。(解答用紙マーク)

「濃厚接触」という言葉と、食卓を囲んだりおしゃべりをしたりといった営みは通常は結びつかない。それゆえ、危険と思わずにそうした営みを続けた人々が、少なくとも当初は多くいたことだろう。

問五 次のイ〜ニについて、問題文の趣旨に合っていれば○に、合っていなければ×にそれぞれマークしなさい。(解答用紙マーク)

イ 専門用語を日本語に訳して用いる場合、漢字や平仮名交じりの新語として訳しても、原語が持つ意味を十分に包含できないので、カタカナ語として訳した方が適切なことがある。

ロ 複数の学問分野でそれぞれ異なる意味を持つ専門用語を日本語に訳す場合には、専門家同士の協議を経て、どれか一つの意味のみにしほりこんで訳すことが、人々の理解を促す上で望ましいとされている。

ハ lockdown という語の訳として用いられた「都市封鎖」という語は強い意味を持つ語であるが、当時の社会状況をよく反映しているという意味ですぐれた訳語であると評価されている。

ニ ある分野の専門家同士でその意味を共通に了解して用いてきた専門用語を、公共性の高い領域で日本語に訳して用いる際には、人々の間に理解の偏りや誤解が生じないように語の意味を丁寧に説明することが重要である。

問六 波線 a、b の片仮名を漢字（楷書）で書きなさい。また、c の漢字の読みを平仮名で書きなさい。（解答用紙記述）

例文

この国産物は、品質が非常に高く、性能も優れている。また、価格も手頃で、多くの消費者に愛用されている。このように、国産品は、品質、性能、価格の面で、海外製品と遜色ない。むしろ、一部の分野では、海外製品を上回る。これは、日本の技術力と、職人の技術の賜である。また、国産品は、環境に優しい。これは、日本の企業が、環境保護に力を入れているからである。このように、国産品は、品質、性能、価格、環境の面で、海外製品と遜色ない。むしろ、一部の分野では、海外製品を上回る。これは、日本の技術力と、職人の技術の賜である。また、国産品は、環境に優しい。これは、日本の企業が、環境保護に力を入れているからである。

この国産物は、品質が非常に高く、性能も優れている。また、価格も手頃で、多くの消費者に愛用されている。このように、国産品は、品質、性能、価格の面で、海外製品と遜色ない。むしろ、一部の分野では、海外製品を上回る。これは、日本の技術力と、職人の技術の賜である。また、国産品は、環境に優しい。これは、日本の企業が、環境保護に力を入れているからである。このように、国産品は、品質、性能、価格、環境の面で、海外製品と遜色ない。むしろ、一部の分野では、海外製品を上回る。これは、日本の技術力と、職人の技術の賜である。また、国産品は、環境に優しい。これは、日本の企業が、環境保護に力を入れているからである。

この国産物は、品質が非常に高く、性能も優れている。また、価格も手頃で、多くの消費者に愛用されている。このように、国産品は、品質、性能、価格の面で、海外製品と遜色ない。むしろ、一部の分野では、海外製品を上回る。これは、日本の技術力と、職人の技術の賜である。また、国産品は、環境に優しい。これは、日本の企業が、環境保護に力を入れているからである。このように、国産品は、品質、性能、価格、環境の面で、海外製品と遜色ない。むしろ、一部の分野では、海外製品を上回る。これは、日本の技術力と、職人の技術の賜である。また、国産品は、環境に優しい。これは、日本の企業が、環境保護に力を入れているからである。

この国産物は、品質が非常に高く、性能も優れている。また、価格も手頃で、多くの消費者に愛用されている。このように、国産品は、品質、性能、価格の面で、海外製品と遜色ない。むしろ、一部の分野では、海外製品を上回る。これは、日本の技術力と、職人の技術の賜である。また、国産品は、環境に優しい。これは、日本の企業が、環境保護に力を入れているからである。このように、国産品は、品質、性能、価格、環境の面で、海外製品と遜色ない。むしろ、一部の分野では、海外製品を上回る。これは、日本の技術力と、職人の技術の賜である。また、国産品は、環境に優しい。これは、日本の企業が、環境保護に力を入れているからである。

この国産物は、品質が非常に高く、性能も優れている。また、価格も手頃で、多くの消費者に愛用されている。このように、国産品は、品質、性能、価格の面で、海外製品と遜色ない。むしろ、一部の分野では、海外製品を上回る。これは、日本の技術力と、職人の技術の賜である。また、国産品は、環境に優しい。これは、日本の企業が、環境保護に力を入れているからである。このように、国産品は、品質、性能、価格、環境の面で、海外製品と遜色ない。むしろ、一部の分野では、海外製品を上回る。これは、日本の技術力と、職人の技術の賜である。また、国産品は、環境に優しい。これは、日本の企業が、環境保護に力を入れているからである。

（参考） 野村浩一（A野村文、日本文の両方に精通する）が、両方の国産品を比較しています。（読者版）

〔選択・現代文〕〔A現代文・B古文の両方に解答した場合は、両方とも採点されないことがあります〕〔配点四〇点〕

二―A

わが国では一般に「楽器」という語はオーケストラの演奏に用いられるものを主体としたヨーロッパの楽器を意味しており、それ以外の楽器はしばしばミンゾク楽器と呼ばれている。このミンゾクという語が「民族」であるのか「民俗」であるのか、文字で書かれていてもその用法はアイマイ^aなことが多い。

同様のことは音楽にも見られ、「音楽」というといわゆるヨーロッパの芸術音楽を意味し、その他の音楽で馴染みのないものは、大抵^アミンゾク音楽と呼ばれている。

思うに、われわれの音楽に関する大部分の知識は義務教育の中で授けられたものが土台になっており、その内容はヨーロッパの音楽が主体であると言える。このことに関しては近年特に教育の場では是非が論じられているが、本書でも後にふれることとなろう。個人個人のその後の音楽的な教養の差はあるにしても、一般的な日本人のヨーロッパ以外の音楽に関する知識は、自国の音楽をも含めて非常に少ないのが現実である。

「ヨーロッパ音楽」と無造作に書いてきたが、わが国の義務教育はもとより、かなり専門的な教育・研究の分野で対象となっている音楽でさえも、彼の地で有史以来培われてきた種々の音楽の中のきわめて狭い範囲、すなわち、およそ十七世紀以降に西ヨーロッパで確立された体系的な形をとった音楽、言い換えれば音が X された後の、いわゆる近代五線譜による音楽に限られている。

身近な例をあげてみよう。ピアノを習う子供は、音の高さ、音の長さなどが量的に表され、それが一定の形式で記されている楽譜の読み方を覚え、それに従って鍵盤を押し、ペダルを操作することに熟達すれば、難しい楽曲でも音にすることができ。このようなことが可能であるのは、「ヨーロッパ音楽」では使用される音が一オクターヴ内に十二音に限られ、各音の高さ（周波数）も定められていて、特にピアノなどの鍵盤楽器では対応する鍵を押せば直ちにその音が出せるようになっていからである。

表面的に見れば、楽譜通りに鍵を押し、ペダルを操作することは、

A

、英語を知らなくても英文を記すことができ

るように、音楽を知らなくても音を鳴り響かせることができるようなシステムが確立されているのである。これに対して、例えば三味線を習う子供は、原則として楽譜がないので、師匠の弾く音を聴いて覚え、その音を出すために勘どころ（音の高さを決めるために弦の長さを区切る位置）を覚え、求められる音色を出すための撥さばきなどを自ら手探りでエトクしなければならぬ。そしてなによりもまず、ほとんどの場合は曲の主体である唄を覚え、同時に唄えるようになることが前提となるのである。このような学びかたで何よりも必要となるのは集中力で、この場合の三味線のお稽古は集中力の養成に他ならないと言つてもよいであろう。何事によらず、このような形の教育を受けて一定以上の修練を積んだ人に、全人的な教養とでも言えるものが備わってくるのは、集中力を養い、五感・五体の鍛練を重ねた賜であると思われる。

これは「ヨーロッパ音楽」とその他の音楽の教育方法の優劣を意味するのではなく、それぞれの音楽にはそれに即した異なった学習方法があることを述べたにすぎない。「ヨーロッパ音楽」は本来合理的、理論的に学ばなければその高みに到達することはできないのであつて、楽譜を読み楽器を操作するのは、実はその第一歩にすぎないのである。

教育の内容や成果はともかく、実際の面から見て「ヨーロッパ音楽」のほうが学びやすく、また多人数を対象として行われる学校教育に適していることは明白である。

われわれの周辺で日常的なこととなっているピアノのお稽古や、連日開かれている大小の音楽会などに見られる「ヨーロッパ音楽」の普及は、前述したような世界に類のない音の定量化・標準化が確立されたこの音楽においてのみ可能なのであつて、今日のように日本はもとより世界各地の異文化の中に「ヨーロッパ音楽」がシントウしている最大の理由はここにあると考えられるのである。

「ヨーロッパ音楽」の普及に伴い、日本の音楽にもかなり以前から五線譜による音の表記など、定量化・標準化の導入が試みられて教育や研究の一翼を担っているが、これには基本的な無理があると思う。その第一は音の高さである。「ヨーロッパ音楽」では一オクターヴに十二の音があり、その周波数は正確に計算され、定められていることはすでに述べた。日本の音楽の各音の高さは数値的にもそれとは一致しないうえに、曲種によりまた奏者によって微妙な違いがある。そしてさらに重要な

ことは、日本の音楽では音の表情がシンズイ^dであることである。

先に例にあげたピアノをはじめとする種々の「楽器」は、ヨーロッパ音楽^eのみが持つ和声の発達とともに完成された楽器である。

B、楽器には同時に出来る多数の音の響きの美しさをサマタ^eげない音色が要求される。これに対して日本の音楽は唄を主体とする旋律の音楽であり、一つの音の表情の豊かさ、微妙さが生命であって、楽器の音にも当然それが要求されている。ヨーロッパ音楽^eの楽器が音の定量化・標準化に伴って、折からの科学技術の発達に裏付けられながら、正確な音の高さを得るためのさまざまな技術的手段を取り入れたミュージカル・インストラメント (musical instrument)、すなわち器械・器具的な要素の多いものとなって、他の音楽の楽器とは異質な存在となったことが、冒頭に述べた「楽器」とミソク楽器という観念を一般に持たせたのであるが、その中には少なからず「発達したもの」と「未開のもの」という見当外れな意味も含まれている。相当の理解がない限り、一般には銀色に光るメカニズムで覆われたフリユートと、単なる竹筒に数個の孔があいているだけの横笛との違いは、**Y**として目に映るので、このような誤解は無理からぬことである。

ヨーロッパ音楽^eはヨーロッパ民族が持っている民族音楽の一部の、一般に芸術音楽と呼ばれているものであって、われわれのそれではない。われわれがそれを学び、享受することができるのは、音の定量化・標準化がもたらした普遍性によると言っても過言ではないだろう。ヨーロッパ音楽^eによつて大きな喜びを得ている者は、大いにそれを愛し、讃えるべきである。いまやヨーロッパ音楽^eとその楽器は日本の民俗の中で不可欠に近い存在となり、とりわけ「音を出すもの」としての楽器は道具 (instrument) として自由自在に使われ、ヨーロッパ民族の楽器でありながら日本の民俗楽器となつてしまった。しかし日本民族の音楽をはじめ「ヨーロッパ音楽^e」以外の諸民族の音楽は、本質的に前述した意味での普遍性を持たないものである。

「ヨーロッパ音楽^e」に倣つて、諸民族の音楽を定量化・標準化して普遍性を持たせようとする試みは、それがどのような形をとったとしても、**C** ことに心しなければならぬと思う。

民族の音楽は教育されるものでも、他から与えられるものでもなく、民俗の中から生まれ、自然に伝わってゆくものである。

る。それは時代の変化を取り込みながら絶えず流れる川のようなものであって、意図的に保存され、普及されるべきものでもない。日々の生活の中で「音」を聞くこともなく、伝えるべき音楽も生まれてこないような生き方をしている民族は音楽的に貧しく、もとより自分たちの楽器など持っているはずもない。このような民族がどうして他民族の音楽を本当に理解することができるだろうか？

(郡司すみ『世界の音』)

問一 空欄A～Cに入る最も適当な語句を次のイ～ニからそれぞれ一つずつ選んで、その記号にマークしなさい。

(解答用紙 ㊦)

A

イ 具体的な動作の習熟を通して、芸術の深遠さを体現するものであり

ロ タイプライターや昨今のワードプロセッサに向かって原稿を見ながら印字する行為と大差なく

ハ 単純な基本動作の反復練習が圧倒的なパフォーマンスの実現につながることを示すものであり

ニ 数学の公式の由来を理解したうえで反復練習をすることと同じであり

B

イ そこでは同時に鳴り響く音の高さの相互関係が最も重要視され

ロ 複数の音の総和が織りなす音色はあくまで偶然性に委ねられており

ハ 音と音の組み合わせにより新しい価値を創造するという試みには慎重な姿勢が見え隠れし

ニ 換言するならば、実際には邦楽における音の組み合わせに通底するものであり

C

イ 完成形の実現には一層の時間と努力が要される

ロ これらの音楽が本来有する個性を多角的にとらえる

ハ これらの音楽の本質を損なう危険をはらんでいる

ニ 究極的には民族の心性の象徴的表現となる

問二 空欄

X

に入る語句を問題文中から五字以上一〇字以内でそのまま抜き出さない。(解答用紙記述)

問三 空欄

Y

に入る最も適当な語句を次のイ～ニから一つ選んで、その記号にマークしなさい。(解答用紙マーク)

イ 和音と旋律Ⅱ未開と先進

ロ 和音と旋律Ⅱ先進と未開

ハ 複雑と単純Ⅱ未開と先進

ニ 複雑と単純Ⅱ先進と未開

問四 傍線ア「ミンゾク音楽」の特徴を問題文はどのようにとらえているか。最も適当なものを次のイ～ニから一つ選び、そ

の記号にマークしなさい。(解答用紙マーク)

イ どの民族の音楽においても、教育の場で取り扱われているのはその一部に過ぎない。

ロ その音楽で使われる楽器は、正確な音を得るための道具としての側面が色濃い。

ハ 一定の規則に則って楽器を使用することが、習い手にとっての第一歩となる。

ニ 体系だてられた音楽教育の中で、継承・発展させられるものではない。

問五 傍線イ「曲の主体である唄を覚え、同時に唄えるようになることが前提となる」とあるが、それはなぜか。最も適当な

ものを次のイ～ニから一つ選び、その記号にマークしなさい。(解答用紙マ)

イ 学校の音楽教育において、日本の音楽が十分に学ばれていないため、どうしても感覚に依拠した形で曲を覚えなさいといけないから。

ロ 曲そのものもつ情感の表現が何よりも大事にされ、そのためにはまず曲全体になじまないとはいえないから。

ハ 三味線の音楽では音が体系化されておらず、第三者にとってそれが再現性のある形でコード化されていないから。

ニ 全人的な教養の獲得を眼目とする邦楽の教育では、楽音を記号化して普遍化することが奨励されていないから。

問六 傍線ウ「音の表情」とあるが、日本の音楽における音の表情とはどのようなものか。問題文の趣旨に沿って三〇字以内

で説明しなさい。(解答用紙記述)

問七 次のイ～ハについて、問題文の趣旨に合っていれば○に、合っていないければ×にそれぞれマークしなさい。

(解答用紙マ)

イ 三味線の稽古は、古くから全人的な教養の涵養をその目的として展開されてきた。

ロ ヨーロッパ音楽はその本来的特性により、組織的な普及・教育活動に適している。

ハ さまざまな音楽を奏でる楽器の進化には、科学的知見の応用が不可欠である。

問八 波線 a～e の片仮名を漢字(楷書)で書きなさい。(解答用紙記述)

(選択・古文)(A現代文・B古文の両方に解答した場合は、両方とも採点されないことがあります)(配点四〇点)

二―B

次の文章は、『大鏡』の一節である。一条天皇(問題文中では帝)の母・藤原詮子(問題文中では女院)と、藤原詮子の弟・藤原道長(問題文中では入道殿)との関係を記したのが次の場面である。

女院は、入道殿を取り分きたてまつらせたまひて、いみじう思ひ申させたまへりしかば、帥殿は、^{注1}うとうとしくもてなさせたまへりけり。帝、皇后宮^{注2}をねんごろにときめかせたまふゆかりに、帥殿はあけくれ御前にさぶらはせたまひて、入道殿をばさらにも申さず、女院をもよからず、ことに触れて申させたまふを、おのづから心得やせさせたまひけむ、いと本意なきことに^B思し召しける、ことわりなりな。入道殿の世をしらせたまはむことを、帝いみじうしぶらせたまひけり。皇后宮、父おとどおはしまさで、世の中をひき変はらせたまはむことを、いと心ぐるしう思し召して、栗田殿^{注4}にも、とみにやは宣旨^{注5}下させたまひし。されど、女院の道理のままの御ことを思し召し、また帥殿をばよからず思ひ聞こえさせたまうければ、入道殿の御ことを、いみじうしぶらせたまひけれど、「いかでかくは思し召し仰せらるるぞ。大臣^D越えられたることだに、いといとほしくはべりしに、父おとどのあながち^bにしはべりしことなれば、否びさせたまはずなりにしこそはべれ。栗田のおとどにはせさせたまひて、これにしもはべらざらむは、いとほしさよりも、御ためなむ、いと便なく、世の人も言ひなしはべらむ」など、いみじう奏せさせたまひければ、むつかしうや思し召しけむ、後にはわたらせたまはざりけり。

されば、上の御局にのぼらせたまひて、「こなたへ」とは申させたまはで、我、夜^{注6}の御殿に入らせたまひて、泣く泣く申させたまふ。その日は、入道殿は上の御局にさぶらはせたまふ。いとひさしく出でさせたまはねば、御胸^{注3}つぶれさせたまひけるほどに、とばかりありて、戸を押し開けて出でさせたまひける。御顔は赤み濡れつやめかせたまひながら、御口はこころよく笑ませたまひて、「あはや、宣旨^a下りぬ」とこそ申させたまひけれ。いささかのことに、この世ならずはべるなれば、いはむや、かばかりの御有様は、人の、ともかくも思し置かむによらせたまふべきにもあらねども、いかでかは院をおろかに思ひ申させたまはまし。その中にも、道理すぎてこそは報じたてまつりつかうまつらせたまひしか。御骨^{注7}をさへこそは懸けさせた

まへりしか。

中関白殿・栗田殿うちつづき亡せさせたまひて、入道殿に世の移りしほどは、さも胸つぶれて、きよきよとおぼえはべりし
わざかな。いと上がりての世は知りはべらず、^④翁^⑧もの覚えての後は、かかることさぶらはぬものをや。今の世となりては、一
の人の、貞信公・小野宮殿をはなちたてまつりて、十年とおはすることの、近くはべらねば、この入道殿もいかと思ひ申し
はべりしに、いとかかる運におされて、御兄たちはとりもあへずほろびたまひにしこそおはすめれ。それもまた、さるべくあ
るやうあることを、皆世はかかるなむめりとぞ人々思し召すとて、有様を少しまた申すべきなり。

〔大鏡〕

注1 帥殿Ⅱ一条天皇の皇后定子の兄・藤原伊周

注2 皇后宮Ⅱ定子

注3 父おとどⅡ藤原道長の長兄・藤原道隆。定子の父。中関白殿と同一人物。

注4 栗田殿Ⅱ藤原道長の次兄・藤原道兼

注5 宣旨Ⅱ問題文では関白を任命する宣旨

注6 夜の御殿Ⅱ帝の寝所

注7 御骨をさへこそは懸けさせたまへりしかⅡ詮子の葬送の際、道長はその遺骨までも首にお懸けになった。

注8 貞信公・小野宮殿Ⅱ藤原忠平・藤原実頼

問一 傍線①「うとうとしく」を、問題文の文脈に沿って現代語訳しなさい。(解答用紙記述)

問二 二重傍線a、bの問題文における意味として最も適当なものを、次のイ〜ニからそれぞれ一つずつ選んで、その記号にマークしなさい。(解答用紙マーク)

- a イ ご寵愛になる ロ 権力をお与えになる ハ おもてなしになる ニ お引き立てになる
- b イ 心ならずも ロ 愛情ゆえに ハ 配慮から ニ 無理矢理に

問三 傍線A「申させたまふを」B「思し召しける」C「思し召して」D「越えられたる」の動作主を次のイ〜ハからそれぞれ一つずつ選んで、その記号をマークしなさい。(解答用紙マーク)

- イ 帝 ロ 女院 ハ 入道殿 ニ 帥殿 ホ 皇后宮 ヘ 栗田殿

問四 傍線②「しらせたまはむ」を、問題文の文脈に沿って現代語訳しなさい。(解答用紙記述)

問五 傍線③「御胸つぶれさせたまひける」について、誰が、なぜそのようなになっているのかを、過去の一条天皇の行動をふまえて説明しなさい。(解答用紙記述)

問六 傍線④「翁」とは、『大鏡』の語り手の役割を果たしている登場人物・大宅世次のことである。問題文中で「翁」が伝えなかったこととして、最も適当なものを、次のイ〜ニの中から一つ選んで、その記号にマークしなさい。

(解答用紙 ☐)

イ 藤原道長の栄華は、道長本人の強運だけではなく、周囲を取りまく様々な要因も影響しており、簡単に成し遂げられたものではないということ。

ロ 藤原伊周が栄華を逃した理由は、詮子をないがしろにしたことだけなので、人間性に問題があると栄華を成し遂げることもできないということ。

ハ 貞信公・小野宮殿のように、栄華を成し遂げた人物は藤原道長以前にもおり、そうした人物には強運を持っているという共通項があるということ。

ニ 帝であっても愛情に左右されて人事を動かすべきではなく、藤原道長が栄華を成し遂げたのは、世の中の道理にかなっただけであるということ。

問七 問題文の内容と合致しないものを、次のイ〜ニの中から一つ選んで、その記号にマークしなさい。(解答用紙 ☐)

イ 伊周は、亡き父が大臣、妹が帝の皇后であることからおごった態度をとっていた。

ロ 詮子の主張の根拠は、兄弟間で政権が順番に委譲されるのが道理であるというものである。

ハ 道長は詮子が自分の栄華に力を尽くしてくれたことをきちんと理解し、感謝していた。

ニ 道隆、道兼は、落ち度はないが道長の強運に負け、あっけなく早死にした。

問八 『大鏡』の特徴の一つとして、紀伝体の形式をとっていることがあげられる。その形式に影響を与えたと考えられる作品として、最も適当なものを次のイ～ニの中から一つ選んで、その記号にマークしなさい。(解答用紙マ)

- イ 『論語』 ロ 『史記』 ハ 『白氏文集』 ニ 『淮南子』